

保険薬局各位

済生会和歌山病院薬剤部

トレーシングレポート（薬剤情報提供書）の導入と運用について（改訂）

平素は、当院の院外処方せん応需におきまして、ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回、医薬品適正使用推進や医療安全の観点から、「トレーシングレポート」を導入することと致しました。今後、緊急性を要さない服薬状況などに関する報告や処方内容に関する提案は、トレーシングレポートを積極的にご活用頂けましたら幸いです。

尚、一般家庭等へのFAX誤送信を回避するため、原則として、済生会和歌山病院薬剤部宛にE-mailでご報告頂きますよう、ご理解とご協力のほど宜しくお願い致します。

※疑義照会については通常通り電話による疑義照会及び「済生会和歌山病院 疑義照会簡略化プロトコル」に基づく疑義照会を不要とする運用となります。

※外来がん化学療法の連携（連携充実加算）については、「特定薬剤管理指導加算2における抗がん剤患者指導報告書の運用について」をご参照下さい。

◆トレーシングレポートとは？

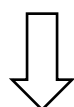
トレーシングレポートとは、薬剤情報提供書とも言います。患者さんからの聞き取り情報（アドヒアランス、複数病院受診、OTCや健康食品の服用等）など、即時性の低い情報について医師へ情報をフィードバックするレポートです。※トレーシングレポートによる情報提供は疑義照会ではありません。

◆トレーシングレポートの目的

保険薬局で「即時性は低いものの処方医師へ情報提供したほうが望ましい」と判断された内容を薬剤部で集約し、医師へ情報伝達を行い情報の共有化を図ります。

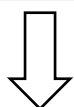
◆トレーシングレポートの流れ

保険薬局にて得られた、処方医に情報提供することが望ましい即時性の低い情報



※当院薬剤部へ専用の報告書を用いてメール送信

薬剤部にてレポートの内容を集約



※薬剤部担当者がメール内容を確認する

処方医へ情報提供。処方医からの回答を保険薬局へフィードバック

※薬剤部担当者が、処方医からの回答を保険薬局へフィードバック、電子カルテへ保存